七十五周年を迎え　ワンチームで日本一の教育県の実現を

広島県連合小学校長会　会長　山田　幸治

広島県連合小学校長会は、昭和二十年に広島市に原子爆弾が投下され、厳しい生活環境の中で、市民・県民が一体となり復興への努力を続け、教育現場にも徐々に新しい時代への光を見出し始めた昭和二十五年五月二十三日に会員六七十名で、発足し、今年度で節目の七十五周年を迎えています。

昭和、平成、令和と時代が変遷する中で、平成十年には、当時の文部省から是正指導を受け、本県教育全体を根底から見直し、教育の「中立性」と「公開性」を掲げ、是正の徹底と教育改革を推進し、県民から信頼される公教育の確立に努めてきました。平成十三年には、広島県公立学校長会連合会を設立し、広島県教育の発展を更に力強く進める決意を新たにしました。このような先輩方の苦労や努力により、広島県では、校長を中心とした、組織的な学校経営を行うことができています。

令和に入り、新型コロナウイルス感染症拡大という危機的な事態に直面しました。不安や恐怖を感じながらも、子供たちの未来のために、学びを止めないという強い覚悟で、工夫をしながら教育活動を推進してきました。

また、令和三年度から広島市小学校長会が、県内において広島県連合小学校長会と組織上分離し、県連小の組織自体が大きな転換期を迎えました。

このような中で、学校では、いじめや不登校への対応、特別支援教育の充実、ＩＣＴの活用など、諸課題の対応に悩むことがあります。そんな時こそ、校長先生方がワンチームとなり、絆を強くし、悩みを共有し、英知を結集し、課題を克服していきましょう。

さて、新年度に当たり、次の三点について共有したいと思います。

まずは、「校長が元気でいること」です。四月一日に学校に行くと、放課後、児童会の新一年生がいましたので、「私がだれか分かりますか。」と聞きました。すると、答えない新一年生の横にいた三年生が、大きな声で「いつも元気のいい山田校長先生です。」と答えてくれました。その言葉がすごく嬉しくて、この一年間も元気で明るい校長でいようと新年度の誓いを立てました。校長が、空元気の時もあるでしょうが、元気で明るい姿を実践しましょう。

二つ目は、「不祥事の根絶に強い覚悟で取り組むこと」です。各学校では、不祥事防止の取組を進めていますが、昨年度も児童生徒に対する性犯罪・性暴力が発生するなど、不祥事の根絶には至っていません。児童生徒に対する性犯罪・性暴力は、「魂の殺人」とまで言われ、被害に遭った児童生徒を一生苦しめます。校長として、自らを律し、不祥事を自分事して考え、職員に教育公務員としての自覚を常に促し、職員のストレス軽減や不祥事を生起させない環境づくりに取組み、不祥事の根絶に努めましょう。

三つ目は、「人材育成」です。教員の年齢層に偏りがあり、人材育成は急務です。私たちも育てていただきながら、今、校長になっていますが、「あの校長先生に出会ったから」「あの校長先生と一緒に働いたから」という校長先生がいるのではないでしょうか。私たち校長は、職員の人生をも左右する存在になりうるという自覚のもと、職員の特性や指導力を見極め、職能成長させるとともに、教員という職業に誇りを持てる人材を育成しましょう。

結びに、広島県内の小学校長先生方がワンチームとなり「広島で学んで良かったと思える広島で学んでみたいと思われる日本一の教育の実現」を達成し、児童や教職員、保護者や地域の方の心にいつまでも残る校長となることを願って挨拶とさせていただきます。